

テント一週一文 (み) —— 「はとぼっぽ通信」 220 号 小泉元首相の脱原発講演録 (その1)

(承前)

テントで風を防ぐ

九電本店ビルは、福岡市の中心街を南北に走っている渡辺通りに面していて、「テントひろば」はその正面玄関前に立っている。2011年3月11日フクシマ第一原発事故発生約1ヵ月後、4月20日に始めたテントなので、この4月下旬で8年目に入った。7年間の間に、テントの内側・外側は何度も変わっている。内部が変わるのは、いろいろな人が飾るものや掛けるものを持って来るからだ。夏には風鈴が下がり、冬には風除けにカバーを下げなければならないので、カレンダーを除いて不要なものは一切下げられない。

さてこの日、春の日ではあるが、風が少し強くなってきた。風と雨と世人の無関心とが、テントの三つの敵である。テントに来る人はお年寄りが多く、風の強さや温度の変化や雨足の強弱ははなはだ気にもする。

「私には夢がある。原発のなくなる日が来ることです」と偉大なるスローガンをばくったゼッケンを前と背中に掛けて自転車でテントに来る男の方(以下「自」さん)は65歳を越えている。テントの前で賛同者記名ノートを置く机を整えていた女性(以下「机」さん)も、「原発いらない」の黄色い旗をテントの脚に結び付けていた女性(以下「旗」さん)も、「自」さんより若くは見えない。「見えない」だけで、年齢は判らない。

この日、この三名は、十三階建て九電本店ビルの前にあってビル風に吹き付けられるテントのなかで、「風が出てきましたね」と、急いで透明ビニールをテントの周りに張り付けて一息つく。

旗：ア～、やっと風が来なくなった。

机：ホント、少し暖かくなってきたわ。でもほら、ビニールの下があおられて……風が強いと下から吹き込んでくるのよ。

旗：「自」さんがきっと工夫してくれると思うわ。

自：風が来ないようにすればいいんですか？

旗：そうそう。

自：ポールがあれば何とかかなりますがね。

机：ポールって何？

自：「原発いらない」の旗を支えている金属の棒ですよ。

旗：さっき村長さんが何本か向こうに持って行ってたわ。

自：向こうって車の方にですか？ 判りました。村長さんに聞いてみましょう。

テント用の資材を乗せて毎日運んでいる軽トラックをテントから少しはなれた場所に駐車して、反原発の音楽やメッセージを放送しているのである。そこにも「原発いらない」の黄色い旗がはためいている。しばらくすると「自」さんが、ポールを数本持ってテントに帰って来る。

自：これをですね、こんな風に伸ばしてですね、ビニールの下に開いているトリメの穴に紐を通して、その紐とポールを結ぶんですよ。こうするとビニールの下のポー

ルがっつ、重石になってですね、あおられないはずなんですよ……。どうです！ 風は、少しは来なくなったでしょう。

机：来なくなったわ。でも風が強いとビニールの下全体が揺れるので、ポールがぶらぶらして、ほらっ、ぶらぶらしているでしょう、何か危なくない？

自：危なくはないですが不安定ですね。

旗：ポールの端をテントの脚に結び付けたらどう？ ポールも動かないし、風も遮られるんじゃない？

自：そうですね。やってみましょう。端をテントの足に結んでつと……。出来上がり！

机：ホント、風はほとんど来なくなったわ、こちらからはね。あと三方はどうしましょう。

自：どうしましょうかね。ポールはまだ残ってはいますけど……

旗：こちらから来なくなっただけでも助かるわ。三方からの風には知らん顔をしておかない？

机：どうしましょうか。

「はとぼっぽ通信」の小泉元首相の脱原発講演録

机：それでね、さっき「自」さんが透明なビニールの下の方とポールを結わえつけて間に、そこにある書類を見ていたらこんなのがあったわ。

旗：見せて。「はとぼっぽ通信」？

自：覚えていますよ。「テント一週一文」で昨年6月2日に取り上げていました。

☆参照：http://npg.booo.jp/kieyuku/week_repo/170605kuriyama.pdf

旗：思い出した。お坊さんの中畠哲演さんが編集長を務めている通信でしょう。中畠さんは福岡の集会に来て挨拶をしたこともあるわ。

机：そう。会の名前は「原発設置反対小浜市民の会」。

自：私にも見せて。オヤ、小浜で小泉元首相の講演が開かれたんですね。

机：そう。そのことを12月4日にも報告しているわ。

☆参照：http://npg.booo.jp/kieyuku/week_repo/171204kuriyama.pdf

自：小泉元首相は、脱原発の分野では今はちょっとした「時の人」ね。

旗：原自連もあるし、「原発ゼロ法案」もあるしね。

机：その講演会は9月に開かれているんだけど、それを書き起こした記録の（その1）がこの2017年12月発行の220号に掲載されているのよ。

自：長いのか？

机：ちょっと長いわ。5ページ。

旗：でも講演記録だったら気楽に読めるでしょう。

机：その通り。

自：この第1ページの受益圏と受苦圏は何？

机：ここで強調しているのは「無関心な」受益圏という感性への警鐘なのよ。内容はそれほど難しくはないのよ、

自：あなたの説明を聞いただけでも、私には十分難しそうだ。

机：そこは難しくても小泉元首相の講演は難しくはないわ。

旗：デ、ここには（その1）ってあるから、（その2）もあるのね。

机：それは次の「一週一文」のお楽しみ。

旗：あら、ずいぶん持たせるのね。

机：いいから読んでみて。

旗+自：判りました。

こうして、風が入ってこないように工夫して少し過ごし易くなったテントでは、静かな時間が流れていきました。

(文責 栗山次郎)

2018年4月23日公開

参照：原発設置反対小浜市民の会発行「— 若狭の原発を考える — はとぼっぽ通信」
第220号（2017年12月） 1～6ページ
http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/hatopopo220.pdf